

ザンビア通信 vol.7

青年海外協力隊 平成 22 年度 3 次隊

ザンビア 理数科教師 金田直己

任地である北西部州ソルウェジにて 5 月 19 日に同任地のボランティア 2 人と協力して日本文化紹介イベントを開催しました。

日本という遠く離れた国はザンビア人にとってまさに秘境。どこに日本が位置しているかなんて知る人は多くはありません。我々ザンビア隊員は地域の人たちや生徒に日本を知ってもらう為に不定期にザンビア各地で日本文化を紹介しています。

今回のコンテンツは・・・

- ・ JICA 紹介
- ・ ロックソーラン演舞
- ・ 日本文化紹介(折り紙、相撲、剣玉、日本紹介映像など)
- ・ 展示

JICA のホームページ内に告知も載りました。

<http://www.jica.go.jp/zambia/office/information/event/20120511.html>

我がザンビア隊ではソーラン演舞をする「ソーラン隊」が有志により組織され、今回のイベントにもザンビア各地からソルウェジに集まっていただきました。

日本人ボランティアによるソーランに加え生徒(会場となる高校の生徒)にもソーランを実際に踊って体感してもらおうと当日の 2 週間前から毎日練習しました。わたしも毎日

自分の授業が終わってから家から 25km くらい離れたこの高校に通い生徒と共に練習しました。ザンビア人はダンスがとても好きです。しかしソーランの動きは彼らのダンスと



か勝手が大変異なる為、とても難しそうで苦戦していました。最初の週ではなかなか覚えることが出来ず残りの 1 週間でなんとかやるか不安がよぎりましたがそこからの彼らの進歩は目覚ましく当日は見事に踊り切り大成功！私自身も生徒の中に混ざって踊りましたが、終わった瞬間は歓喜のあまり泣きそうになりました。生徒と共に練習したこの



2週間は私のザンビア生活の中で1位2位を争うぐらいの良い思い出になりました。

今回は今までの日本文化紹介では実施したことがなかった「相撲」も取り入れてみました。これがザンビア人たちに大盛況。ルールも簡単なので小さい子供から学校の先生まで楽しんでいただきました。



ザンビアに来た日本人は必ずと言ってもいいくらい遭遇するザンビア人からの「中国人」攻撃。普段道を歩いているだけで「チョッチョリー(中国人)」「チャイニーズ」と頻繁に馬鹿にした感じで浴びせかけられます。本当の中国人に対して使っているだけではなく、我々アジア人「っぼい」人たちを見つけると根拠無くとりあえず投げかけてきます。しかし事前の生徒へのアンケートの結果によると、チョッチョリーという言葉をただ単に「中国人」「アジア人」と捉えて何気なく使ってしまう生徒も少なくありません。教育者としてザンビアの将来を担う子供たちにはそのような事は言うてほしくはありません。今回は「チョッチョリーと言うな!」というダイレクトな表現ではなく「もしあなたたちが同じような事を言われたらどんな気持ちになりますか?」と啓発的に生徒たちに考えてもらうプチ講義も文化紹介の中に設けました。



世の中には様々な文化が存在し、様々な考えを持っている人々が居るということを彼らに知ってほしいと私は考えています。私自身も豊橋以外の所に行き、住むことにより色々な人たちに出会いました。人との出会いが私を育て今日の自分があると思っています。彼らには内に籠らず常に外を見て多くの人たちと会うことで彼ら自身を育てていってほしいです。



Vol.8 に続く。